

環境と健康

公衛協相互の情報交換の場 尾道市で体験交流研修を開催

2月22日に、公衛協相互の情報交換の場である「体験交流会」が開



尾道市公衛協オリジナルのフレイル紙芝居の上演(上)、体力測定メニューの体験(右上)、体験したプログラムを振り返り交流する参加者(下)

催のきっかけづくりを目的に、当協会主催の体験交流研修を開催しました。本研修は今回初めて企画したもので、活動内容の豊富さが県内トップクラスである(一社)尾道市公衆衛生推進協議会を、8公衛協から21人が訪問しました。

午前中は、主に尾道市公衛協で実施している環境づくり・健康づくり事業と組織体制について紹介いただきました。いずれも、行政や他団体と連携しながら実施されており、地区単位でも活発な活動が行われていました。これらの事業を展開するためには、事務局機能が充実していること、事務局と各地区との連絡・調整が密に行われていることなどが挙げられます。そのいずれも達成している尾道市公衛協に、参加者は感心しきりでした。

午後からは、尾道市公衛協オリジナルの「フレイル紙芝居」が上演され、フレイル予防に関心を持たせた後、各地区のイベントなどで実施している体力測定メニューを体験しました。握力や足指力、膝間力など、フレイルの原因ともなる筋力量を測定しました。測定結果が印刷されたシートをもらい、研修全体の振り返りを行いました。

参加者からは「尾道市公衛協は素晴らしい。自分たちもできるところから始めたい」「こういふ研修は、継続して実施してほしい」など、高い評価をいただきました。また、参加者同士で話し合い、令和6年度に交流会を企画した公衛協もありました。

地域支援課では、令和6年度も体験交流研修を企画・実施します。この機会を活用し、他の公衛協の好事例を学び、我が公衛協の活性化を図っていきましょう！

「地域活動支援センター」

識者を交えた防災井戸事業 持続可能な運用方法を協議

①福山市公衛協

このシリーズでは、他の公衛協の活動を知り、今後の公衛協活動に活かしてもらうことをねらいに、公衛協の実践活動を取材し、取り組みの工夫や秘訣、時には失敗談などを紹介していきます。

平成30年7月豪雨を受けて、環保協・公衛協では、防災の取り組みの必要性を検討して



避難所に井戸水を運ぶ

きました。令和2年、福山市公衛協が音頭をとり、竹尋学区で自治会・福山市立大学・環保協が連携した防災井戸のモデル事業がスタートしました。目指したのは、識者の助言を取り入れ、自治会で持続可能な防災井戸事業とすることで、福山市立大学の堤教授

から、①避難所からの距離や井戸へのアクセス、利用度や水量などから優先井戸を定めること、②水質によって生活用水の中でも、「清掃」「洗濯」「風呂」などに仕分けできること、③下水も考慮することなどの助言をいただきました。

町内会ごとに優先井戸を設定し、「環境と健康のコミュニティ活動助成金」や環境・健康募

金を活用して、水質検査を行ったり、ポンプ、タンクなどを整備しました。運用ルールを協議する中で、防災井戸は一般公開とせず、避難所と町内会長が町内の防災井戸の情報を管理することとし、井戸マップと井戸の位置や写真・注意事項を記した個票を作成しました。また、自治会が定めるスタッフ

が避難所に設置するタンクに井戸水を運び、その水を被災者が生活用水として利用することにしました。

読者の皆さまから、我がまちの公衛協活動の特色・ウリなどの取材依頼をお待ちしております。

さんせんか 琴線歌

エディオンピースウィング広島は開幕以来、満員の盛況が続きます。広島に新たな感動拠点が生み出されました。サッカーが誕生しました。▼サッカー

1 王国広島には奇跡の記録があります。被爆のわずか2年後、広島高等師範学校附属中学校が全国中学校蹴球大会で優勝したのです。校舎は倒壊、グラウンドは芋畑を整理し直し、ボールは一個か二個しかなく、しかも皆が被爆者でした。東洋工業は、1965年の日本リーグ初年から4連覇を果たします。そして1968年のメキシコ五輪の銅メダル獲得時、日本代表18人中6人が広島、監督も広島出身の被爆者 長沼健さんでした。

広島サッカーの奇跡

江田島の旧海軍兵学校では明治から英国式サッカーを取り入れ、第2次世界大戦時には、ドイツ軍捕虜から本格的独式サッカーを学びました。とはいえ、被爆2年後の優勝という奇跡がなぜ生まれたのか。当時、サッカー

「レジーエン ス、ゲーテの言葉で借りれば「メタモルフォーゼ」、そして最近の言葉では「クオオナムリフ(量子的飛躍)」とも呼べるものではないか▼日本代表監督 森保さんも、「メウツウ」とはあると思う。サンフレッチェ初優勝年の最大のライバルは、震災翌年のベガルタ仙台だったと、悲劇を乗り越えたチームの強さを、しみじみ語りました。

(株式会社サンフレッチェ広島 代表取締役社長 仙田信吾)

一般財団法人 ~みんなの生命をまもりつづけたい~ 広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)
TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

基本理念

みんなの生命(いのち)をまもりつづけたい。
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、持続可能な社会の発展に貢献します。

